



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イラク：イスラーム国が米国人を処刑

現地時間 19 日午後、イスラーム国はインターネット上で、米国人ジャーナリストのジェームズ・ライト・フォーリー氏とみられる人物を処刑する映像を発表した。同氏は、2012 年からシリアで行方不明になっていた。

同映像において、フォーリー氏と見られる男性は、家族や友人向けに米国のイラク政策は犯罪行為であり、米国がイラクで行なっている空爆により自分は死ぬのであると述べた。次いで、覆面の戦闘員とみられる人物が、空爆で多数のムスリムを殺害している米国を非難する発言を行なった後、男性を処刑した。その後、同じくジャーナリストとみられる別の白人男性 (Steven Joel Sotloff との記載あり) が画面に映り、覆面の男は「男性の命はオバマ政権の今後の方針次第である」と警告した。覆面の男は流暢な英語で話していた。

評価

イスラーム国は、米国のイラク空爆に対して極めて残虐な形で報復を示した。またイスラーム国側が別の捕虜男性を登場させて、オバマ政権の今後の政策いかんでは男性の命はないと示唆したことから、イスラーム国は米国にイラク空爆の停止を求める意図があるとみられる。

今回の事件は、米国世論に少なからず衝撃を与えるだろう。イスラーム国も、オバマ政権に対する米国民からの圧力によって同政権にイラク空爆を停止させるねらいがあるのかもしれない。しかし、オバマ政権はイスラーム国が支配した地域、または交戦地域への空爆を今後も続行すると見る向きは多い。1 人の人質救助のために、国益のかかった軍事作戦を変更する可能性は高くないと考えられるからである。しかし、今回の事件で、米国によるイラク空爆が現地の欧米諸国民の命を危険にさらす事例となったことは確かであろう。今後も同様の人質事件が起きる可能性は否定できない。

(イスラーム過激派モニター班)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799